

東南アの鉛需要上向く

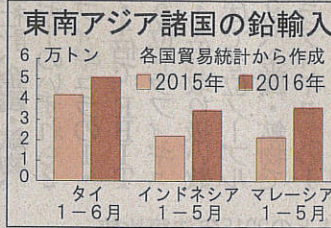
バッテリー生産回復映す

東南アジアの鉛需要が上向いている。タイ、インドネシア、マレーシアなどの鉛バッテリー生産が回復しているためで、各国の今年前半の地金輸入量は3〜6割の大幅増加。需要が旺盛だった2013年前後のレベルまで伸びており、大手輸出国の韓国や豪州によって販売競争が繰り広げられている。

韓国・豪州が販売競争

東南アジアでは、自国で調達を拡大。12年後自動車用バッテリーや携帯電話基地局向けの産業用バッテリーが好調だった11〜13年にかけて調達を拡大。12年後半には需給がタイト化し、電気鉛のスポット契約の海外プレミアム（割増金）が一時トン

3000ポンド近くまで高騰した。14年からは景気後退により鉛輸入量は減少したが、今年に入り増勢を取り戻している。



では2年5カ月ぶりの高水準に上った。今年はこの過去最多だ

った13年並みのペースで推移。中でも対豪州輸入が145%増の1万7962ポンドと大幅に増えている。

インドネシアの1-5月輸入は56・9%増の3万4733ポンド。前年は年間で65・3%減と落ち込んでいたマレーシアも、今年1-5月は66・3%増の3万6021ポンドと盛り返している。

一方の輸出国の動きを見ると、韓国の1-7月電気鉛輸出は57・5%増の16万9441ポンド。日米などからのリサイクル原料輸入を背景に、過去最多だった前年のペースを大きく上回っている。その内訳を見ると、タイ向けが22・1%増の2万2

011ポンド、インドネシア向けが64・9%増の1万3693ポンドのほか、ベトナム向けも22・8%増の1万3262ポンドと軒並み上積みしている。

豪州は1-6月で5・6%増の19万8681ポンド。一次製錬国の豪州は、47%を英国とイ

ンド向けに輸出しているが伸び悩んでおり、生じた輸出余力をマレーシアなどに振り分けている。東南アジアの鉛バッテリー市場をめぐっては、この2カ国がシェア争いを展開している。

14年ごろまでバッテリー需要が旺盛だった

米国の輸入が一服しており、1-6月は25万6033ポンドで前年比9・9%、ピークだった14年と比べると20・1%減っている。世界需給で見れば、この米国の輸入減少分を、東南アジアの増加分がカバーしていると言える。